

心のとびら

弥富市立桜小学校
道徳通信 No.41
平成28年7月14日

“親切”について考える ～2年生の道徳では～

6月29日（水）に2年梅組で、道徳の研究授業を行いました。2年生の児童は、交友関係に広がりが見られるようになり、相手のことを考えて行動することができるようになってきました。しかし、まだまだ人に親切にすることよりも、自分を優先することも少なくありません。そこで、今回の授業では『くりのみ』という資料を通して、相手が困っているときに助け合う大切さについて考えました。

寒い冬のある日、きつねとうさぎが食べ物を探しに行きました。うさぎはくりの実を2つ見つけることができましたが、きつねは1つも見つけることができません。うさぎは、2つのくりの実のうちの1つをきつねに渡します。きつねは涙をこぼしました。

そこで、「自分がきつねだったら、うさぎに何と言うか」を考えました。「今度うさぎさんが困っていたら助けてあげるね」という意見が出されると、「〇〇さんの意見、優しいね」などと答える児童もいました。友達との意見交流を通して、友達と助け合っていこうとする気持ちを高めることができました。

みんなのいけん

- ★ 2つしかないのに、1つ分けてくれてありがとう。
- ★ 助けてくれたから、今度お返しするよ。
- ★ うさぎさんにどんなことしてあげたらいいかな。
- ★ これから一緒に食べ物を探しに行きましょう。
- ★ ありがとう。でも自分で見つけるから、ぼくはいらないよ。



【真剣にお話を聞く】



【自分の意見を発表】



【普段の生活を振り返って】